

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470501154	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	たまたばこ		
所在地	(〒232 - 0066) 横浜市南区六ツ川2丁目107番地43号		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成24年1月29日	評価結果 市町村受理日	平成24年6月19日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様の健康管理について、職員間の連携により、きちんと把握することに努め、突発的なことが発生した場合にも迅速な対応をすることを目指している。 ・ご利用者様、一人ひとりを尊重し、その方の生活リズムに合わせながらケアを実践している。 ・ご利用者様の健康状況を把握し買い物や戸外へ出かけ楽しんで頂く。また、他のユニットや併設の小規模多機能型居宅介護との交流をもつことも多くあり、行事やレクリエーションを一緒に楽しむ機会がある。 ・併設の小規模多機能型居宅介護サービスを利用されているご利用者様が入所希望をされる方が多くあり、入所後においても連携を図ることができる。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月15日	評価機関 評価決定日	平成24年5月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 この事業所は、JR東戸塚駅や京急弘明寺駅よりバスで5～10分のところにある。神奈川県道218号（平戸桜木道路）から道路を一本入ったところに所在しているが、事業所の近くは緑が多く静かな住宅地である。すぐ近くにファミリーレストランが2店舗あり、気軽に外出に出かけることができる。 建物の2階と3階が当事業所で、1階は小規模多機能型居宅介護と居宅介護支援の事業所となっている。玄関前の駐車場スペースは広く、バザーを開催して多くの地域の方の参加を得ている。</p> <p>【法人内での連携】 同法人は当事業所の他に特養などを運営しているが、法人とは、食事や職員教育、医療体制等で連携している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所を利用していた方が当事業所に入居するケースも多く、スムーズに移行できるよう、連携して対応している。</p> <p>【地域との連携、地域資源の活用】 併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共に、自治会に加入し、地域との連携に努めている。前述のバザーのほか、自治会主催の夏祭りに利用者と職員が参加して楽しんだり、ハロウィンの際に近隣の学童クラブの児童が仮装して事業所に立ち寄り、保育園の運動会を見学に行ったりして地域と交流している。また、宅配寿司の店舗より、箸や醤油、お吸い物などを1つずつ袋づめする作業を請け負っている。利用者の力量に応じた役割を分担して作業をしてもらうことで、利用者によりがいを持ってもらうように取り組んでいる。また、利用者はこの地域に住んでいた方が多い。近隣の友人の訪問や、手紙の收受など、個人的な付き合いも支援している。 防災面でも、地域の防災訓練に職員が参加し、事業所の避難訓練には地域の方に通知して参加を得るなど、連携を深めている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	たまたばこ
ユニット名	2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本にして、地域密着型サービスとしての理念を職員全員の意見から吸い上げ、施設単位での理念を作りあげた。フローアでも、更に理念の意識を高め、共有し実践につなげている。	法人の理念とは別に、職員から意見を吸い上げ、事業所独自の理念を作成した。玄関等に掲示し、名刺カードの裏面に掲載して職員への浸透を図っている。理念に基づき、利用者を「ちゃん」付けで呼ばないなど、言葉遣いに注意し、利用者の尊重について勉強会を行っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩等の外出を通し、ご利用者様と職員と一緒に地域住民の方へイベント開催のお誘いを行い交流に努めている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、六ッ川上第一自治会に加入している。自治会主催の夏祭りに利用者と職員が参加し、くじ引きをするなどして楽しんだ。事業所主催のバザー（ふれあい会）には、近隣の方の参加が100名ほどあった。そのほか、ハロウィンの際に近隣の学童クラブの児童が仮装して事業所に立ち寄りたり、地域の防災訓練に参加したり、保育園の運動会を見学に行くなどの交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区社会福祉協議会の中の「認知症見守り隊」というボランティアグループがあり、地域で暮らす認知症の方の見守りを取り組んでいる。このグループの方々へ施設を利用される高齢者や入所されている認知症の方のケアの実践や取り組みを話させて頂いた。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に会議を開催している。開催時は、施設の状況報告を行い、ご意見やアドバイスを頂き向上に努めている。	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、3ヶ月に1回開催している。参加者は、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員などで、議題は事業所の活動報告や地域の情報提供などである。会議を通じて地域との関係ができてきているので、今後は、地域の方に事業所の理解を深めてもらう取り組みをさらに進めていく意向である。	

5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区からの要望があり介護相談員の新任研修者実習を受け入れた。グループホームで生活されている方の個々の悩みやご家族様の思い等、介護支援サービスの内容など説明し対応に努めた。	横浜市の職員とは、事故対応や虐待防止、生活保護受給中の方の対応について指導を受けたり、相談をしたりしている。区の介護相談員の実習生や地域ケアプラザからの見学者の依頼を受け入れている。また、南区のグループホーム連絡会に参加しており、情報交換している。	
---	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、身体拘束をしないケアについて研修の機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる。	事故防止委員会があり、ヒヤリハットなどから対策を検討し、職員に周知させている。入口は、目につきにくい場所にあるスイッチを押してドアが開くようになっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、虐待防止についての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、権利擁護についての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約内容（解約も含む）を十分に説明し、ご理解を頂いた上で締結している。また、改定の際は、家族会を通して十分に説明してご理解・了承を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に意見投書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。投書内容は、常務理事を含め、管理者が運営会議上で検討する機会を設けている。検討事項については、館内会議においてスタッフに周知されている。	家族会を年1回開催している。事業所の活動や職員の異動、火災通報装置の設置等についての報告や、質疑応答、意見交換をしている。地震の際の停電について、「充電式の懐中電灯を購入したらどうか」との提案があり、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設入口に、投書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。また、法人の全体会議・当施設の全体会議・館内会議。スタッフ会議においても、意見や提案が出やすいよう配慮している。	会議等で職員から意見を聞いている。投書箱を設置し、職員が議題を提案できるようにしている。館内会議（小規模多機能型居宅介護事業所と合同）で、職員から制服について提案があり、フロアごとに色分けしたエプロンをつけることにした事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの把握に努め、働きやすい職場環境の整備に力を入れている。給与水準や役職への導き等についても考慮し、法人事務局へ相談・申し入れを行い、スタッフの力量が低下しないよう取り組んでいる。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、一人ひとりの力量を把握するよう努めている。また、職員においては、スキルアップシートに目標設定をして頂き、年に1、2回面談を行い、目標達成へのスキルアップの向上につながるよう取り組んでいる。内外研修に参加させ、職員間でも共有できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会へ参加し、情報交換の機会がある。地域包括支援センター・他施設の法人等の連絡を密にし、情報ネットワークを拡張して、サービスの質を高めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や困惑していないかを十分に傾聴するよう努めている。その中で、安心できる生活が送れるよう支援に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学において、ご家族様の不安や要望を十分に把握して、地域密着型サービスとしての地域の中で安心して暮らせるよう支援を行うことに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の相談内容を十分に見極め、その時に合ったサービスの利用や他のサービスへの紹介等も含め支援が出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の背景を知り、ご利用者様がこれまでに担ってきた手作業の技術を学び、ご利用者様と共に作業にあたっている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内のイベントや個人の外出等、ご家族様に協力して頂き、共にご利用者様を支えていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣地域からの入所が多数であるため、入所前の友人、親族の面会、電話の取次ぎ、これまでの関係が途切れないよう努めている。また、面会の際は、フロアー・居室で楽しく会話が出来よう雰囲気への配慮に努めている。</p>	<p>アセスメントを基に、入居以前の生活を継続できるように配慮している。近隣に住んでいる友人が訪問した場合は、お茶を出し、居室等で話をしてもらうなどの対応をしている。行きつけの美容院に家族と一緒に行く方がいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者様各々のADLの状況を把握した上で、レクリエーションや共通の話題を提供し、できるだけ多くの利用者様に参加していただけるよう努めている。また、コミュニケーションが困難なご利用者様に対しては、職員が間に入りコミュニケーションが円滑に出来るよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了した後も、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設へ入所したり、サービス終了した場合であっても、施設イベント開催を行う際は、お誘いし、出来るだけ参加協力を頂き、ご家族様との関係を継続できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用様の気持ちに出来る限り添えるよう努めている。また、スタッフ間においても、ご利用様の要望等は何かについても共有しながら支援している。	入居時には実地調査をもとにセンター方式のアセスメントを用いて利用者の意向の把握に努めている。入居後は、日々の生活の中から利用者ごとの落ち着いた時間帯を把握し、その時間に話を聞くようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを用いて、これまでの状況把握に努めている。また、日常の会話の中からも思いや意向を引き出せるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式を用いている。入居後の共同生活の場の暮らし方等についても不都合が生じていないか確認する。また、カンファレンスや記録を通し、身体状況や残存能力を重視しながら現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を基に、日々のケアを行っている。また、ご本人の思いやご家族様の要望等を傾聴し、情報収集する。介護支援専門員や居室担当者が施設サービス計画を作成し、それを基に介護計画を作成している。	介護計画から必要事項を抜き出して「ケアプラン実施表」に記載し、計画の実施状況を日々記録して達成状況を把握している。介護計画は6ヶ月ごとに見直し、変更している。家族には訪問時等に計画の内容を伝えている。医師からは往診時に意見を聞いて、関係者の意見を取り入れた計画としている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践内容については、業務日誌や個別ケースに記入・ケアプラン実施表に記入している。特変状況については、職員間での連絡ノートに記載し、状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特徴（小規模多機能型居宅介護）を活かし職員間での協力体制を図っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターである地域ケアプラザや自治会からの情報の提供を受けている。また、ボランティアの方々の協力を得ながら、ご利用者が安心して暮らせるよう努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族等の希望を受け、希望者には、入居後も馴染みの、かかりつけ医への受診をご家族様の協力を得ながら実施している。入居後は、協力医療機関からの隔週の受診を受けている。他には、地域訪問歯科・泌尿器科・皮膚科の協力を得ながら健康維持に努めている。	協力医の往診は月2回ある。それ以外の専門医（循環器科、精神科、眼科など）を利用している方は8名程度おり、家族または職員が対応している。その際は「受診時報告書」を医師に渡している。また、診察の内容は個別のケース記録に記載して、情報を共有している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本体の看護師と医療連携をとり指導及び援助を受けている。複合の小規模多機能型居宅介護の看護師（非常勤）が従事しているため、日常の健康管理への相談や指導、援助を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関へ、ご利用者様の情報提供を伝えて治療が出来るようにしている。退院が近い場合は、MSW及び担当医とムンテラに参加する等、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時の段階で、「重度化した場合における対応に係わる指針」に基づきご本人及びご家族様に説明し、重度化した場合における同意書に同意を受けた上で職員及び関係者で方針を共有している。</p>	<p>入居時に、重度化した場合の事業所の対応指針について説明し、同意書を受け取っている。現時点では看取りを行った事例は無いが、今後、ターミナルケアを推進していく意向である。</p>	<p>今後、当事業所での看取りを検討しています。医療連携の構築や職員の教育など、終末期の支援が出来る体制づくりを徐々に進めていくことを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的ではないが、他の事例状況等を学び、隔週での往診医から指導を受けている。また、法人での救命講習研修に参加していただき、実践力を向上するよう努めている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>館内において、概ね2ヶ月に1回と年2回の総合防災訓練（昼夜想定）として職員に周知している。また、訓練の際は、ご家族様や地域住民の方にもお知らせして参加協力体制を築いている。</p>	<p>併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で防災訓練を2ヶ月に1回行っている。夜間想定訓練も実施している。訓練の際には地域の方にも連絡しており、消火器の使い方の訓練などに参加する方もいる。備蓄品として、食料・飲料水3日分、トイレ用テント、毛布、簡易トイレなどを用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心を傷つけない声かけや場面設定（排泄場面等）を心がけている。個人記録については、書庫にて管理、当日の記録等については、バインダーに挟み伏せ直接目に触れないよう努めている。	居室に入る際にはロックして確認してから入る、排泄の誘導を大きな声でしない等、利用者のプライバシーを尊重することを心掛けている。個人情報を含む書類は事務スペースの戸棚に鍵を掛けて保管している。また、個人記録等の書類はバインダーにはさみ、裏返して目につかないようにするなどの配慮をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや願いを聞き、自己決定、自己実現が出来るよう努めている。（思い出の場所への外出、食べたい物への提供）意思表示の困難なご利用者様に関しては、時間をとり傾聴姿勢で接し自己決定できるよう繰り返し説明するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアー清掃や、居室清掃、レクリエーションを提供する時間等、全体での日課はあるが自由参加である。個々のペースを守り尊重し、希望に添えるように努めている。必ず、レクリエーション等の前に、参加への意思確認をするようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔週で訪問理美容業者が来館している。ご利用者様及びご家族様の希望により理容・美容サービスを受けて頂いたり、馴染みの美容室へ通われたりしている。外出の際に、洋品等を購入し、おしゃれを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜から土曜日の昼食・夕食の主菜は、法人と同じメニューが運ばれ、温める食材は、当職員が対応し提供している。日曜日のメニューは、当施設で提供しているが、メニューについては、ご利用者様の希望などを事前に伺い提供するよう努めている。また、出来る限り、準備段階より手伝って頂き、配膳後の片付け等も行って頂いている。	平日の昼食と夕食は、同法人の特養からおかずが届くので、事業所ではご飯と汁物を用意する。それ以外に事業所で一品追加することもある。日曜日は、利用者の希望をもとに近隣のスーパー等で食材を購入し、調理している。利用者は配膳、下膳、食器拭きなどを行い、職員は、一緒に同じ食事をしている。回転寿司やすぐ近くにあるファミリーレストランなどに外食へ行くこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、法人本体の管理栄養士が作成した献立による昼食・夕食となっている。食事量は、その都度計測している。定時水分提供時間（三食の提供時・10時・3時のおやつ時・就寝時）を含め、摂取量を計測し、1日を通して確保できるようにし、不足気味の場合は職員が把握できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし居室または、共同洗面所においてご利用者様にしている。自力で出来ないご利用者様には、職員が対応している。夜間においては、義歯を預かり毎晩、または、定期的に洗浄剤につけ除菌、消臭を実施している。また、地域訪問歯科医に相談をし、指導・援助を受け個々のケアに努めている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った取り組みを職員間で共有し援助している。排泄に失敗し、気力の低下がある場合にもきちんと受け止め、無理強いケアにならないようご利用者様と職員間でよい方法を見つけ対応出来るよう努めている。	排泄チェック表に、すべての利用者の排泄状況を記録している。また、その記録を月ごとに排便チェック表に落とし込んで、利用者ごとの状態を把握している。必要がある場合にはきなこ牛乳を摂るようにするなど排泄を促す工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に気をつけて、ご利用者様には、出来る限り体を動かして頂く為に、ほぼ毎日体操を行っている。また、乳製品や食物繊維豊富な食材を提供するよう心がけている。それでも、便秘が改善されない場合は、個別に往診医に相談し、内服薬の処方を受けている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴曜日は決まっているが、観たいテレビなどがある際は、順番を考慮したり、当日の入浴を別の日への変更を受け入れたりその方のペースに合わせて臨機応変に対応している。	入浴は原則週2回以上で、希望があれば状況に応じて対応している。入浴の時間は、午後2時から午後4時くらいである。入浴したくない方は職員や時間を変えて誘導し、入浴を促している。入浴を楽しむための支援として、ゆず湯、菖蒲湯のほか、みかんの皮を干したものを入れることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に屋外からの灯りを遮断して安眠できる居室状態を保つ為に、遮光入りカーテンを使用している。各々の生活習慣を重視した上で、昼夜逆転や生活リズムが崩れない程度で休息の声かけをし、シーツ交換や布団干し等を行い、清潔な環境作りを行い、安眠できるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に周知できるよう服薬管理一覧表を作成し服薬内容を確認している。また、処方に変更になった時は、速やかに職員間で情報を共有し把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のADL及び残存能力に応じたレクリエーションや軽作業を提供している。また、植栽や館外清掃、食事準備や食事の片付け、場面において各々の得意な作業に参加して頂いている。年間行事の中で、利用者様の希望を取り入れたイベント企画を実行している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候及び当日の職員体制にもよるが、戸外への外出支援（主に買い物、ドライブ）を適宜実施している。	10時から13時半くらいを目安に散歩に出かけている。また、近所のスーパーに買い物に行ったり、回転寿司やファミリーレストランで外食をしたりしている。散歩を好まない方も、通院時に職員が付き添い外食をするなどの支援をしている。大きな外出は年2回、赤レンガ、山下公園、江の島水族館などへ出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様それぞれの小口現金をご家族様よりお預かりして、ご家族様の了解の上で、ご本人に千円単位の現金を所持して頂き買い物の際に自由に使用出来るよう支援している。現金の取り扱い困難なご利用者様には、職員が対応できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話及び利用者様からの電話をかけたい等の要望がある場合は、フロアーにある電話を使用して頂いている。はがきの購入や投函も個々に応じて支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃時や合間に空間に臭気が停滞しないよう適宜換気に努めている。共有部分の空調に関しては、ご利用者様の身体状況に応じて温度調整をしている。空間の演出として、ご利用者様の手作り品や季節に合った掲示品の交換等で季節感の工夫を行い楽しんで頂けるよう対応している。	入り口近くにはお難様や職員の名前と顔写真が掲示されている。リビングや廊下には誕生会や豆まきなどの行事の写真、塗り絵や習字作品が掲示されている。リビングの隣には和室があり、洗濯物を畳んだり、お茶会や診察の際に使っている。スタッフルームはオープンで、リビングや入口が見渡せるので、利用者の様子を随時見守る事が出来る。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現時点では、ご利用者様の座席が決まっているが、新入所者が入所した際などは、座席替えに協力して頂き、他の利用者様とも馴染めるように配慮している。フロアーには、ソファや他の椅子を置き、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、居室の範囲内で使い慣れた家具等の持ち込みを促している。居室内配置については、ご本人及びご家族様の意思の尊重した上で、転倒等の危険性に配慮した、居室空間のお手伝いを居室担当が中心になって実施している。	各居室の入り口には表札がつけられている。居室内はクローゼット、エアコン、洗面台が設置されている。居室担当者と本人・家族が相談して居心地がよくなるような部屋作りをしており、ベッド、椅子、衣装ケース、ぬいぐるみ、家族の写真などが持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居室入口付近にご本人の居室であるか確認できるよう表札を設置している。また、3ヶ所のトイレや浴室の表示をして理解出来るように工夫している。共有部分においてはご利用者様の歩行を妨げにならないよう、物品の配置等十分配慮して自立した生活が送れるよう努めている。		

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470501154	事業の開始年月日	平成17年9月1日
		指定年月日	平成17年9月1日
法人名	社会福祉法人		
事業所名	たまたばこ		
所在地	(〒232 - 0066) 横浜市南区六ツ川2丁目107番地43号		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ご利用者の健康管理については、職員間の連携により、きちんと把握することに努め、突発的なことが発生した場合にも迅速な対応をすることを目指している。
- ・戸外への外出を多く取り入れ、ご利用者様一人ひとりが社会参加できるよう支援している。
- ・ボランティアの方の導入を多くし、日々を楽しく過ごして頂けるよう働きをかけている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	たまたばこ
ユニット名	3階

アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本にして、地域密着型サービスとしての理念を職員全員の意見から吸い上げ、施設単位での理念を作りあげた。フローアでも、更に理念の意識を高め、共有し実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩等の外出を通し、ご利用者様と職員と一緒に地域住民の方へイベント開催のお誘いを行い交流に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区社会福祉協議会の中の「認知症見守り隊」というボランティアグループがあり、地域で暮らす認知症の方の見守りを取り組んでいる。このグループの方々へ施設を利用される高齢者や入所されている認知症の方のケアの実践や取り組みを話させて頂いた。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に会議を開催している。開催時は、施設の状況報告を行い、ご意見やアドバイスを頂き向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区からの要望があり介護相談員の新任研修者実習を受け入れた。グループホームで生活されている方の個々の悩みやご家族様の思い等、介護支援サービスの内容など説明し対応に努めた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、身体拘束をしないケアについて研修の機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、虐待防止についての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規職員の新任研修や館内研修及びスタッフ会議等で、について権利擁護についての研修機会を設け、業務中でのサービス提供に際しても、考え方を共有できるよう取り組んでいる		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約内容（解約も含む）を十分に説明し、ご理解を頂いた上で締結している。また、改定の際は、家族会を通して十分に説明してご理解・了承を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に意見投書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。投書内容は、常務理事を含め、管理者が運営会議上で検討する機会を設けている。検討事項については、館内会議においてスタッフに周知されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設入口に、投書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。また、法人の全体会議・当施設の全体会議・館内会議。スタッフ会議においても、意見や提案が出やすいよう配慮している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの把握に努め、働きやすい職場環境の整備に力を入れている。給与水準や役職への導き等についても考慮し、法人事務局へ相談・申し入れを行い、スタッフの力量が低下しないよう取り組んでいる。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、一人ひとりの力量を把握するよう努めている。また、職員においては、スキルアップシートに目標設定をして頂き、年に1、2回面談を行い、目標達成へのスキルアップの向上につながるよう取り組んでいる。内外研修に参加させ、職員間でも共有できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加し、情報交換の機会を設けている。地域包括支援センター・他施設の法人等の連絡を密にし、情報ネットワークを拡張して、サービスの質を高めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や困惑していないかを十分に傾聴するよう努めている。その中で、安心して生活が送れるよう支援に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談を受けた後、施設見学において、ご家族の不安や要望を十分に把握して、地域密着型サービスとしての地域の中で安心して暮らせるよう支援を行うことに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の相談内容を十分に見極めその時に合ったサービスの利用や他のサービスへの紹介等も含め支援出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の背景を知り、ご利用者様がこれまでに担ってきた手作業の技術を学び、ご利用者様と共に作業にあたっている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内のイベントや個人の外出等、ご家族様に協力して頂き、共にご利用者様を支えていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域からの入所が多数であるため、入所前の友人、親族の面会、電話の取次ぎ、これまでの関係が途切れないよう努めている。また、面会の際は、フローア・居室で楽しく会話ができるよう雰囲気への配慮に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様各々のADLの状況を把握した上で、レクリエーションや共通の話題を提供し、できるだけ多くの利用者様に参加していただけるよう努めている。また、コミュニケーションが困難なご利用者様に対しては、職員が間に入りコミュニケーションが円滑に出来るよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所されサービス終了した場合であっても、施設イベント開催を行う際は、お誘いし、出来るだけ参加協力を頂き、ご家族様との関係を継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の気持ちに出来る限り添えるよう努めている。 また、スタッフ間においても、ご利用者の要望等は何かについても共有しながら支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを用いて、これまでの状況把握に努めている。 また、日常の会話の中からも思いや意向を引き出せるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	契約前の段階よりセンター方式を用いている。入居後の共同生活の場の暮らし方等についても不都合が生じていないか確認する。また、カンファレンスや記録を通し、身体状況や残存能力を重視しながら現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を基に、日々のケアを行っている。また、ご本人の思いやご家族様の要望等を傾聴し、情報収集する。介護支援専門員や居室担当者が施設サービス計画を作成し、それを基に介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケアの実践内容については、業務日誌や個別ケースに記入・ケアプラン実施表に記入している。特変状況については、職員間での連絡ノートに記載し、状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特徴（小規模多機能型居宅介護）を活かし職員間での協力体制を図っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターである地域ケアプラザや自治会からの情報の提供を受けている。 また、ボランティアの方々の協力を得ながら、ご利用者が安心して暮らせるよう努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族等の希望を受け、希望者には、入居後も馴染みの、かかりつけ医への受診をご家族様の協力を得ながら実施している。入居後は、協力医療機関からの隔週の受診を受けている。他には、地域訪問歯科・泌尿器科・皮膚科の協力を得ながら健康維持に努めている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本体の看護師と医療連携をとり指導及び援助を受けている。複合の小規模多機能型居宅介護の看護師（非常勤）が従事しているため、日常の健康管理への相談や指導、援助を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関へ、ご利用者様の情報提供を伝えて治療が出来るようにしている。 退院が近い場合は、MSW及び担当医とムンテラに参加する等、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時の段階で、「重度化した場合における対応に係わる指針」に基づきご本人及びご家族様に説明し、重度化した場合における同意書に同意を受けた上で職員及び関係者で方針を共有している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的ではないが、他の事例状況等を学び、隔週での往診医から指導を受けている。</p> <p>また、法人での救命講習研修に参加していただき、実践力を向上するよう努めている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>館内において、概ね2ヶ月に1回と年2回の総合防災訓練（昼夜想定）として職員に周知している。</p> <p>また、訓練の際は、ご家族様や地域住民の方にもお知らせして参加協力体制を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心を傷つけない声かけや場面設定（排泄場面等）を心がけている。個人記録については、書庫にて管理、当日の記録等については、バインダーに挟み伏せ直接目に触れないよう努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや願いを聞き、自己決定、自己実現が出来るよう努めている。（思い出の場所への外出、食べたい物への提供）意思表示の困難なご利用者様に関しては、時間をとり傾聴姿勢で接し自己決定できるよう繰り返し説明するように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フローアークleaningや、居室清掃、レクリエーションを提供する時間等、全体での日課はあるが自由参加である。個々のペースを守り尊重し、希望に添えるように努めている。必ず、レクリエーション等の前に、参加への意思確認をするようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔週で訪問理美容業者が来館している。ご利用者様及びご家族様の希望により理容・美容サービスを受けて頂いたり、馴染みの美容室へ通われたりしています。外出の際に、洋品等を購入し、おしゃれを楽しんでいただいている。		

40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月曜から土曜日の昼食・夕食の主菜は、法人と同じメニューが運ばれ、温める食材は、当職員が対応し提供している。日曜日のメニューは、当施設で提供しているが、メニューについては、ご利用者の希望などを事前に伺い提供できるよう努めている。また、出来る限り、準備段階より手伝って頂いたり、配膳後の片付け等も行っている。</p>		
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスに関しては、法人本体の管理栄養士が作成した献立による昼食・夕食となっている。食事は、その都度計測している。定時水分提供時間（三食の提供時・10時・3時のおやつ時・就寝時）を含め、摂取量を計測し、1日を通して確保できるようにし、不足気味の場合は職員が把握できるようにしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に声かけし居室または、共同洗面所においてご利用者様にさせていただいている。自力で出来ないご利用者様には、職員が対応している。夜間においては、義歯を預かり毎晩、または、定期的に洗浄剤につけ除菌、消臭を実施している。また、地域訪問歯科医に相談をし、指導・援助を受け個々のケアに努めている</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った取り組みを職員間で共有し援助している。排泄に失敗し、気力の低下がある場合にもきちんと受け止め、無理強いのケアにならないようご利用者様と職員間でよい方法を見つけ対応出来るよう努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分不足に気をつけて、ご利用者様には、出来る限り体を動かして頂く為に、ほぼ毎日体操を行っている。また、乳製品や食物繊維豊富な食材を提供するよう心がけている。それでも、便秘が改善されない場合は、個別に往診医に相談し、内服薬の処方を受けている。</p>		

45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴曜日は決まっているが、観たいテレビなどがある際は、順番を考慮したり、当日の入浴を別の日への変更を受け入れたりその方のペースに合わせて臨機応変に対応している。		
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に屋外からの灯りを遮断して安眠できる居室状態を保つ為に、遮光入りカーテンを使用している。各々の生活習慣を重視した上で、昼夜逆転や生活リズムが崩れない程度で休息の声かけをし、シーツ交換や布団干し等を行い、清潔な環境作りを行い、安眠できるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に周知できるよう服薬管理一覧表を作成し服薬内容を確認している。また、処方の変更になった時は、速やかに職員間で情報を共有し把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のADL及び残存能力に応じたレクリエーションや軽作業を提供している。また、植栽や館外清掃、食事準備や食事の片付け、場面において各々の得意な作業に参加して頂いている。年間行事の中で、利用者様の希望を取り入れたイベント企画を実行している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候及び当日の職員体制にもよるが、戸外への外出支援（主に買い物、ドライブ）を適宜実施している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様それぞれの小口現金をご家族様よりお預かりして、ご家族様の了解の上で、ご本人に千円単位の現金を所持して頂き買い物の際に自由に使用出来るよう支援している。現金の取り扱い困難なご利用者様には、職員が対応できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話及び利用者様からの電話をかけたい等の要望がある場合は、フロアーにある電話を使用して頂いている。はがきの購入や投函も個々に応じて支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃時や合間に空間に臭気が停滞しないよう適宜換気に努めている。共有部分の空調に関しては、ご利用者様の身体状況に応じて温度調整をしている。空間の演出として、ご利用者様の手作り品や季節に合った掲示品の交換等で季節感の工夫を行い楽しんで頂けるよう対応している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現時点では、ご利用者様の座席が決まっているが、新入所者が入所した際などは、座席替えに協力して頂き、他の利用者様とも馴染めるように配慮している。フロアーには、ソファや他の椅子を置き、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、居室の範囲内で使い慣れた家具等の持ち込みを促している。居室内配置については、ご本人及びご家族様の意思の尊重した上で、転倒等の危険性に配慮した、居室空間のお手伝いを居室担当が中心になって実施している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居室入口付近にご本人の居室であるか確認できるよう表札を設置している。また、3ヶ所のトイレや浴室の表示をして理解出来るように工夫している。共有部分においてはご利用者様の歩行を妨げにならないよう、物品の配置等十分配慮して自立した生活が送れるよう努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム
たまたてばこ

作成日

24年 5月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りについて ご利用者、ご家族等の意見を聞き反映していく	ご利用者、ご家族等の意見を把握し、看取りが出来る方向で取り組む	スタッフ会議等で十分に話し合い、また、看取りをしている施設の情報等も参考に取り入れ看取り介護が出来る体制を築き実践していく	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。